

学位論文審査結果の要旨

所 属	三重大学大学院医学系研究科 甲 生命医科学専攻 基礎医学系講座 免疫学分野	氏 名	石井 栄津子
審 査 委 員	主 査 丸山 一男 副 査 富本 秀和 副 査 野阪 哲哉		
<p>(学位論文審査結果の要旨)</p> <p>Amelioration of Atherosclerosis by the New Medicinal Mushroom <i>Grifola gargal</i> Singer</p> <p>著者らは論文において下記の内容を述べている。</p> <p>アテローム性動脈硬化症は、血管内皮機能障害、脂質沈着、炎症細胞の浸潤、平滑筋細胞の増殖、血管壁新生血管形成およびプラーク形成を特徴とする血管壁の慢性疾患であり、先進国の主要な死因の一つである。</p> <p>キノコ類は古来より栄養源や医療資源として利用されており、近年、慢性難治性疾患に対する有益な効果が実証され、動脈硬化症への効果も期待されている。著者らは、アテローム性動脈硬化症に対する、チリ・パタゴニア原産のマイタケ属に属する木材腐朽菌である<i>Grifola gargal</i> Singerの影響を評価した。</p> <p>著者らはApoEリポタンパク質欠損マウスに浸透圧ポンプを用いてアンギオテンシンⅡを持続投与することで、アテローム性動脈硬化症モデルマウスを作成した。このモデルマウスに<i>Grifola gargal</i>抽出物（GGE）を投与し、心臓および大動脈の病理学的評価を行った。また、末梢血顆粒球の構成成分および血中の炎症性メディエーターも評価した。GGEを投与したマウスでは、心臓および大動脈のアテローム性動脈硬化の進行が抑制され、末梢顆粒球中では制御性T細胞 (Treg細胞) の割合が増加した。また、GGE投与マウスでは炎症誘発性ケモカインであるMCP-1の血中濃度は低値を、血管修復に関わるケモカインであるSDF-1濃度は高値を示した。</p> <p>C57BL/6マウス由来の肺線維芽細胞を使用した細胞実験では、GGE処理により血管修復に関わるケモカインであるSDF-1およびVEGFの産生が増加した。</p> <p>以上、本論文は、<i>Grifola gargal</i>抽出物がSDF-1の産生を誘導し、制御性T細胞の増加を促進されることにより動脈硬化症の進行を軽減させることを初めて示したものであり、学術上有益であり、学位論文として価値あるものと認めた。</p>			

Journal of Medicinal Food

2015 Aug 1; 18(8): 872–881. doi: 10.1089/jmf.2014.3315

Epub 2015 Mar 23.

著者名

Etsuko Harada, Corina N. D'Alessandro-Gabazza, Masaaki Toda, Toshihiro Morizono, Ayshwarya-Lakshmi Chelakkot-Govindalayathil, Ziaurahman Roen, Masahito Urawa, Taro Yasuma, Yutaka Yano, Toshimitsu Sumiya, Esteban C. Gabazza